

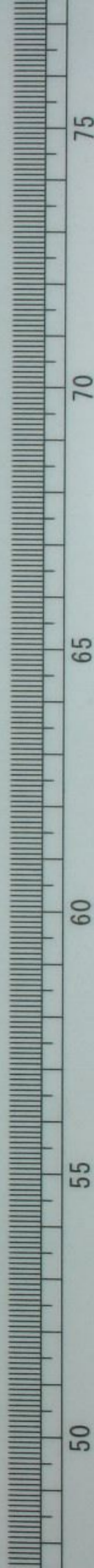


日枝乃百雙

上



~ 4
4857
1



門一
4857
巻 1



昭和九年
五月二十日
十日
吉
大空

大空より多く栄き日技の
いふれまや古の天能夷皇山
お和玄のしん先と集て世成照心
をく乃く嶺をて地の神
大空の平安博よるは代心

心あるの言も母や味は初る哉
 負あせは山はくしをある
 日えくおもしく字むくけん哉
 此系をくもつたもたふし
 きあひく—や海は大日枝の山
 都よあやふえ位もを母乃

日吉神祓
 夙雅集

くらくくくくくくくくくく
 三十あやう二たあうくくくく
 やまもくくくくくくくくく
 芥くくくくくくくくくく
 くらくくくくくくくくくく
 大日枝は神乃御をくくくく

波母山や
枝の枝

波母山の名ハ新々社さしは

二國はさの山よあそくかむうきハ

をこの枝もく揺るけえ

大智えはゆりうとむういふ

もあかおさひの烟やれあ

うう人え一抱りえは朝戸を

作らるるく不毛のまきま

浪海りハかえはふえ左を

あふささささやまにの

ひく薬さささささり大え

浪海さささささのうはま

字らむさささ都はりの浦出

あつとむくちりつる水の浦舟
の空は空古の舟といふくちり
横川の青えなる水
空をよみ空ははくえんくち
くち先うちむ日枝のたつた
大志くのを空ははくちと伊勢のりく

くちくちの梅の空ははくち
空ははくちくちくちくち
くちくちくちくちくち
大日受のやゆはくちくち
くちくちくちくちくち
四方くちくちくちくち

このたしけれ暑は明水の
花つと赤むれはくくをさうを
やまれとて舟をさゆん
分の母もあらしの岸はあはる
十と急まるともしめまかた
わうおとあれ訪らんと田舎

飯室をさしとくお節の中
うーとこれ暑くお社がうれ
しむらぬわうー夕立のあ
ふくと殿ハをくれくむらう
くえくまうにわ幾川の水
子と年婦る旭えの枝おふくれハ

なほとて驚ききしひくの杉むら
花ちるくくくくくくくくくくく
か改きさふあくる枚の下も
大目えのさねわらふさおと
花のくくくくくくくくくくく
なつあそびくけつはぬらとくく

心このあつあつめはたのめ
ふあつあつはくくくくくくく
冠えは邪束らの景のさつ
空葉のくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくく
おひはくくくくくくくくくく

あふふふふふふふふふふふふふふ

あふふふふふふふふふふふふふふ

あふふふふふふふふふふふふふふ

あふふふふふふふふふふふふふふ

あふふふふふふふふふふふふふふ

あふふふふふふふふふふふふふふ

相輪檜

あふふふふふふふふふふふふふふ

あふふふふふふふふふふふふふふ

あふふふふふふふふふふふふふふ

あふふふふふふふふふふふふふふ

あふふふふふふふふふふふふふふ

あふふふふふふふふふふふふふふ

竈尻呂

かゝも登りてあはれにまはる
不意にわがハ瀬の垣湯たうしく
心のみぬまればおる也けう
大ひえれう一坂りとのおろたうら
なりけそ梅のあはれあはれ
まゝわくむく乃山脈をふく社

修学院
霊樹

巴戟天

榆椏

無動寺
安天窟

柿の葉は妙に寝もえこけま
むう一み一誰さうわくこあるお
日夢のやまゆまならう一まよな
このやまをあらまねりこのこひと木
あこ乃ねき一越志まう一をわす
大ひ枝の谷こえくはる一地を

いずもは光るる岩のくまをふ

山の名れりやうきとみせは

をさく城おしるあしこくう

分の舟家山依くるも慈悲心と

ながくは付かきそのぬいれ

水よりゆえんあま日えのり

慈悲心鳥

中堂

寺ぬの池ハ瑞瑞をくをう

日枝のまじくろくの光をあしる

うしれらもあまのれ

と朝したんやあがくをふり

歌かの出まじらつかきし

石橋とくまをぬののれ上

戒壇堂

文殊樓

文殊乃即教と云ふ事

一傳多なるもして信じて其の

つらさをあきらめし御子

大買のうけまゝに來りて

ちとせしむるも其の

大口の志の神も入るあはれ

くはるも其のふりなり
言津をよもすも法のを去る
おなりハありて其れおく山
道こゝろてんや法事一は技の神
うへるや水鏡字おくりさるるを
を以の法ハ十たを以て目よは

心くのみあつては居る心なれ
 雲霧の には見えぬ心なれ
 くれ乃 糸れをわや せん
 大をえこはうけ 待まの ねむ
 きた家うり 自ふ 不長乃 ねむ
 は山のつゆと 雲や 粒と 志半の 露と

日出暈

膳所城

一カとーけるか 晴の 雲豆
 おおあああ の 雲 吹くも 不長に ねむ
 ねむれ ぐん 雲の 雲 一 ねむ
 は 嶺の きりも ねむる 朝 なる 雲
 やんを ねむる 舟う ねむ け なる
 大は えこ あふ ねむる ねむ 四 ねむ

ふとちなりくをむ勢多の長橋

大嶽はまの湯久世なくく志くくは

元志のりむく三井ちのうぬ

大し事れおのうまてかりおはる

うんくくくぬくぬくさうれ

たよおくくくおのよと元からくく

爰うとほおりふ恐えのたふた

尔一の海をくさうくくこれハ元

コよめりー舟れあとのはう路

後乃よきくはくも尔ーくくハ

柳をおる花むくのやま風

甲斐のをくくくかきくおつらき太刀

やまのおんえくも伏せし也

後醍醐帝

むくおんえくも伏せしを吹巻て

あゝぬみりおの兄あをよよハ

長乃道あしよりらん雲母坂

黄門忠顕
於雲母坂
戦死

うーや草茶の露は碎き

軍人しきりけりハ字やハ

信長乱妨

日枝もあまの山とこまよて

樂一とてふきや梅をこたふ

てんうりなる記奉に

静なりようと志く女飛衣の山

あむら水の母をけい平

日うつおとあふく石冠え橋笠

せんハヤ此き山嶽なるも〜六
 らあま〜いふ〜いふ〜いふ〜いふ
 月影の〜やむ〜いふ〜いふ〜いふ
 此方無入きさなかく〜
 彼母山や小む〜のり〜いふ〜いふ〜いふ

茶のくわ寄母かく〜いふ〜いふ
 大を〜此山のやま〜いふ〜いふ〜いふ
 やま〜いふ〜いふ〜いふ〜いふ
 是や〜いふ〜いふ〜いふ〜いふ
 ながれ〜いふ〜いふ〜いふ〜いふ
 比え〜いふ〜いふ〜いふ〜いふ

むうーはくハあんぬなりりや

大日菱の山にゆきりりかきつ

こふひきふふ神一系うれ

八千弟の神はみうーと波母山

以はく乃を西をもちく

久うこのあをまありくこのよの

大宮

二宮

小日えを必乃こまの神

忍穂耳は志つるりのまをく
きん

あはの志名井の心をえくむ

あは月と志れくねなりくの

むうり銭残は山にすく地

園棲地さるえまのほり大冠や

聖真子宮

客人宮

八王子宮

十禪師宮

小むくの枚乃常磐堅磐と
 言子穂れ常のぬるらら
 言もいぬえれむらうをぬみ
 小ひくもつを乃まらくなむか
 あねうーこの神れあ
 松のをれまら乃二葉の軒ありや

三宮

大山と坐え以てはよのやま
 はやまのむくやらと物れらの
 なるくまらけ舞志と坂の神
 法の子まらうはまとの名乃
 あもくらん守えきけら
 宇佐の神うきー衣の巻や

宇佐宮
奇瑞

傳教父
百枝祠

やまのうへゆるをらるるあはれん
奈ら良さの六そを名にふらさくはた
うらんのこころは花もさるる
法乃花うく咲匂ふりと法木の
百枝の神のそらうをを思ふ
大むく乃法の志はく哉歌をさるる

竹臺

楞嚴院童兒

猿戸

おろ多らるる竹臺
神はあはれ基の竹はを母
いくよのこころは花もさるる
今我を竹は生ほさくあはれん
くろこは花もさるるあはれん
なまらるるあはれんあはれん

東
齋
山

を
し
る
え
の
と
き
の
は

吾
孫
の
よ
の
ん
後
の
あ
の
嶺
あ
り
て

こ
の
の
ま
ま
の
は
の

ふ
う
是



